

# MTS Japan Newsletter

## CONTENTS

MTS Japan Newsletter 新年度号巻頭挨拶	1
MTS 日本支部役員交代	2
MTS 本部新専務理事	2-3
Techno-Ocean 開催報告	3-4
岩国海洋環境試験評価サテライト見学会報告	4-5
What's new	5-6
国際会議情報	6

No. 46 April 2022

### MTS Japan 新年号

#### 巻頭挨拶

MTS 日本支部 支部長 鈴木英之

皆様、ご健康にお過ごしでしょうか。

昨年は新型コロナに振り回された一年でしたが、現在も収束の兆しが見えず今年も当面ウイズコロナの生活を強いられることになりそうです。



MTS に関しては、昨年の OCEANS2020 シンガポールと OCEANS2020 ガルフコーストがオンラインで合同開催となりました。今年の OCEANS 2021 San Diego については対面式を想定して準備が進められていますが予断を許さない状況です。学会の運営に関しては、昨年、Dr. Rick Spinrad 会長から Ms. Zdenka Willis に会長の交代がありました。Dr. Rick Spinrad 前会長は、2019 年 1 月か

ら 2020 年 6 月 1 日まで会長を務め、会長就任前の期間も含めて 5 年間にわたって強力なリーダーシップを発揮されました。MTS ブイ技術委員会の初めての国際ブイワークショップをタスマニアで開催し、五大湖のレイクベッド 2030 Tech Surge の開催、MTS John P. Craven Mentor 賞と Captain Don Walsh Award for Ocean Exploration 賞の創設などをはじめとして、多くの新機軸を打ち出されました。さらに、新型コロナ問題では OCEANS をオンライン開催にするという決断もされました。新会長の Dr. Zdenka Willis は米国海軍の大佐として気象海洋学に携わり、その後、NOAA において、米国統合海洋観測システム (IOOS) の創設を指揮し、現在は Veraison Consulting の CEO を務められています。

しばらく前に話題になったジャレッド・ダイヤモンド著の「銃・病原菌・鉄」では、人の移動に伴って持ち込まれた病原菌により、先住民の社会や文明が崩壊に瀕した例が示されていますが、新型コロナの状況を経験すると、確かにテロや災害などに比べて比較にならない影響を社会に及ぼすことが強く実感されます。新型コロナの状況が社会のあり方に関する人々の価値観にも影響を及ぼしているように感じます。特に、持続可能性や再生エ

エネルギーに重きを置く傾向が強くなっているように思われます。日本が国として 2050 年カーボンニュートラルを目指すことになったことも併せて、近い将来大きく日本社会が変化することになります。社会の低炭素化、持続可能な社会の構築に関しては、海洋の果たす役割は大きく、海洋に関わる学術の一端をになう組織として、MTS 日本支部も貢献してゆきたいと考えます。

れば幸いと感じております。みなさま、よろしくお願いいたします。

## MTS 日本支部 役員交代

### MTS 日本支部 トレジャーラー 金子博文

このたび、トレジャーラーを拝命いたしました金子です。なにぶんにもアバウトな性格のためはつきりとは覚えていないのですが、2014 年に本庁から研究所に戻った頃に中原副支部長の主催されている勉強会等に誘われてから海洋産業分野との縁ができました。その後、官、特に安全保障分野からの参画をお願いされ MTS 日本支部の執行委員会の委員をさせていただいております。昨年藤田前トレジャーラーの勇退に伴い、この重責を引き継ぐこととなりました。正直、至らぬ点多々あるかと存じますが、鈴木支部長、中原副支部長および許セクレタリのご指導をいただきながら MTS 日本支部のために微力ながら貢献できればと考えております。前職の最後の仕事が民生分野での利用も想定した大規模試験評価施設の整備でありましたので、産官学の横串によって我が国の海洋資源開発に関わる研究及び産業の発展に寄与でき



前防衛装備庁艦艇装備研究所長。  
1961 年 1 月埼玉県出身。84 年東京大学工学部船舶工学科卒業、86 年同大学院工学系研究科船舶海洋工学専門課程修士課程修了。  
1986 年防衛庁技術研究本部入庁第 1 研究所（現防衛装備庁艦艇装備研究所）入所、2012 年副技術開発官（船舶担当）自律型水中航走式機雷探知機および「たいげい型」潜水艦搭載新規装備品の開発等の事業化と実施を統括、14 年 艦艇装備研究所において無人機関連技術研究の充実を図り、民間利用も視野に入れた大型水中無人機試験評価施設整備及び長期運用型 UUV 事業の計画立案、事業化を統括。

## MTS 本部の新専務理事に Chris Ostrander 氏

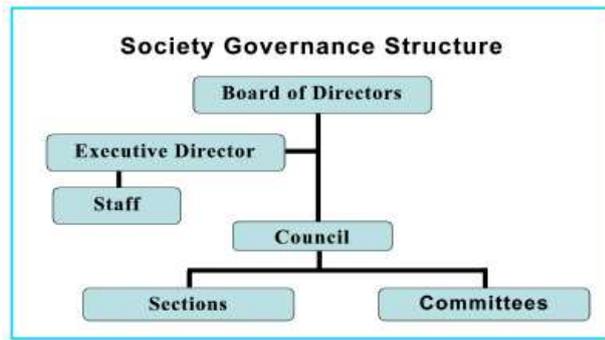
3 月 29 日付けの MTS News によれば、MTS 本部の新しい専務理事（Executive Director）に Chris Ostrander 氏が 3 月 8 日付けで就任した。MTS は、ワシントン DC に独自の常設事務局を擁しており、専務理事の他に MTS Journal 編集担当や財務担当などのスタッフが常駐している。

同氏は、過去約 20 年間、OCEANS 国際会議に多く参加してきたほか、MTS Journal の寄稿者として、また査読者としても深いつながりを持ってきたとのことで、この度 MTS の指導的役割の一翼を担うことは個人的にも頂点に上るに似た感慨を持っていると述べている。

MTS 本部に入る直前には UTA 大学で研究監理業務に従事していたが、その前には、ハワイ大学マノア校の副学部長で海洋地球科学部（SOEST : School of Ocean and Earth Science and Technology）で戦略イニシアチブ担当部長を務めていた。同在任中に太平洋島しょ IOOS（PacIOOS: Pacific Islands Ocean Observing System）の共同設立者であり、事務局長でもあったほか、U.S. Integrated Ocean Observing System (IOOS) Advisory Committee のメンバーでもあった。

参考までに、MTS の組織構造図を次頁に記す。また、本 Newsletter の前号に 2021 年 1 月 1 日現在の MTS の役員等の組織図が写真入りで紹介されているが、そこには専務理事として Kathleen Herndon 氏が掲載されているが、その後任ということになる。





MTS のガバナンス組織構造図

[参照]

- <https://www.mtsociety.org/assets/Chris%20Ostrander%20New%20ED%20President%20Announcement%20final%20for%20website%203%203%202022.pdf>
- [https://www.mtsociety.org/index.php?option=com\\_dailyplanetblog&view=entry&year=2022&month=03&day=28&id=190:message-from-mts-executive-director-chris-ostrander-march-2022](https://www.mtsociety.org/index.php?option=com_dailyplanetblog&view=entry&year=2022&month=03&day=28&id=190:message-from-mts-executive-director-chris-ostrander-march-2022)

## Techno-Ocean 開催報告

TO 実行委員長 大阪大学教授 飯島一博

本稿では 2021 年 12 月 9 日～11 日に開催されました Techno-Ocean 202 について、その実行委員長を務めさせていただきました立場で、概要を報告します。

コロナ禍のために Techno-Ocean 2020 を 1 年間延期した形の今回の Techno-Ocean 2021 ですが、多くの人々にとって久々の対面イベントであったと思われます。コロナ禍が比較的良好に抑えられた時期に開催できたことが何より幸運で、“海で会いましょう～Meet at Ocean” のテーマ通りに、たくさんの参加者が TechnoOcean で会うことを実現できました。

今回の特色は、従来の一般論文公募方式を取りやめ、Techno-Ocean を特徴づける企画としてパネルセッション(PS)を Techno-Ocean として初めて導入したことでした。「海の SDG s」を総合テーマとする PS1～PS 5 までの、それぞれ「海事のカーボンニュートラル」「海中ロボットと資源開発」「養殖産業成長化戦略」「洋上風力発電」「科学技術人材獲得戦略」のテーマの PS を行い

ました。各分野一線の豪華なパネリストを揃えられたこともあり、延べ人数 700 人以上の参加者を集めました。産学官で協力し、日本が力を入れるべき分野についての情報発信ができたものと思います。

基調講演については、まず内閣府総合海洋政策推進事務局長の平岡成哲様より日本の海洋政策に関するご講演をいただきました。東京大学の道田豊教授からはサイエンスの立場から海洋プラスチック問題の話をしていただきました。Ocean Infinity の Sean Fowler 氏からはロボットと海洋資源開発に関する詳細かつ最新情報を解説いただきました。Carbon Trust の Richard Rugg 氏からは再生可能エネルギーを含めた海洋への期待について格調高くお話をいただきました。

一方で展示会はコロナ禍の影響を最も受けた部分です。出展者集めに苦労したのは確かですが、PS の相乗効果もあり、これまでの Techno-Ocean で来場いただけていなかった業界や分野の方々に多数ご来場をいただきました。来場者は述べ 6000 人を超え、このコロナ禍の中、善戦したと言えるのではないのでしょうか。ほか同時開催として上述の水中ロボット競技会の他、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構によるコバルトリッチクラスト採掘試験機の特別展示がありました。さすがに実物の迫力は大きく、特別展示にはリアルでこそ強い魅力がありました。

今回のもうひとつの初めての試みに対面とオンラインのハイブリッド開催があります。Techno-Ocean 2021 では“会うこと、Meet”が重要との認識の下、対面中心の開催としましたが、その一方で、オープニング、基調講演、表彰式から上記の PS、水中ロボット競技会（同時開催）に至るまで、参加者にオンライン中継されました。水中ロボット競技会ではその様子が動画サイトにも投稿され、視聴数が伸びたようです。ハイブリッドではコストがこれまで以上に掛かることは事実ですが、コロナ禍後も、ハイブリッドのメリットを活かした開催が検討されることになることでしょう。

Techno-Ocean 2021 の実施にあたり、共催をいただきました開発法人海上・港湾・航空技術研究所 / 国立研究開発法人海洋研究開発機構 / 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構、そ

して特別協賛をいただきました IEEE/OES 日本支部、MTS 日本支部、さらに基調講演者、PS での講演者、パネリストの方々に深く感謝の意を表します。特に PS のパネリストについて、経団連の多大なご協力をいただきました。

## 岩国海洋環境試験評価サテライト 見学会報告

2021 年 12 月 8 日に開催されました防衛装備庁艦艇装備研究所・岩国海洋環境試験評価サテライト（以下：岩国サテライト）見学会について概要を報告します。

感染防止のための緊急事態宣言等が明け、対面イベントとして開催されることとなった Techno-Ocean 2021 の開催の機会に合わせて MTS 日本支部としてもその前日イベントとして



岩国サテライト見学会参加者



本館ロビーにある模型での施設説明



岩国サテライト長・岡部氏と MTS 日本支部長・鈴木氏

岩国サテライトの見学会を開催しました。

MTS 日本支部役員を含む総勢 35 名（内非 MTS 会員 26 名）と東京から離れた岩国での開催としては大変多くの方の参加がありました。

岩国サテライトは、21 年 9 月 1 日に艦艇装備研究所の新たな支所として発足したものであり、「政府間関係機関移転基本方針（16 年 3 月）」において、デュアルユース技術を活用した先進的な研究分野（水中無人機など）に必要となる、新たな試験評価施設を岩国市に整備することとされたものです。そのため、当初より様々の研究機関、大学、地元企業等民生分野との連携も視野に入れて整備された防衛省の試験評価施設としてはユニークな特色を持っています。シミュレーション装置と水中無人機（実機）を接続させ、多種多様な海洋環境を仮想空間内に作り出し、実機を用いて自律的な状況認識、行動判断の評価及び学習による精度向上を図る施設となるようです。見学会の段階では、仮想空間内の音響環境を再現し無人機に搭載される音響センサーを評価するための大型水槽が完成し、これから試作品に対する実際に試験に向けた準備をしているところでした。

今回の見学会では、岩国サテライトの概況説明、大型水槽の見学のみならず、水槽の水質管理等実運用に関わる現場レベルの議論や参加者と岩国サテライトの研究者との自由討議の機会を設けていただき大変充実したものとなったかと考えています。

22 年度中には、シミュレーション装置が納入され本格運用が開始され、また大型水槽での水中ロボコンの開催も計画されていると伺っています。MTS 日本支部としても民生分野との連携を

考えている岩国サテライトの情報をお伝えするとともに、シミュレーション装置等の見学会についても検討してまいりたいと考えています。

見学会の実施にあたり、大勢の見学者を快く受け入れていただいた支所長をはじめとする岩国サテライト関係者に深く感謝の意を表します。

## — What's NEW? —① MTS & SUT Captain Don Walsh Award 受賞報告

昨年の10月にさかのぼるが、MTSと英国のSUT (Society of Underwater Technology) による Don Walsh 記念賞の2021年受書者に Victor Vescovo 氏と Patrick Lahey 氏を選任した。これは世界の5大洋の最深部への潜水艇による連続潜航を讃えてのもの。5大洋での深海潜航については、本 Newsletter の前号でも紹介しているので参照していただきたい。「Vescovo 氏は私の友人でありクライアントでもあり、ともにこの荣誉ある賞を受賞したことは光栄です。潜水艇 Triton36000/2 の開発は、これまでの人生でもっともチャレンジングでやりがいのある仕事でした。特に、伝説の人物である Don Walsh 氏から授与されたことは本当に有意義です。」と Lahey 氏は語っている。

また、MTS の Zdenka Willis 会長は、「お二人の海洋探査の進歩への貢献は非常に重要であり、MTS と SUT は共同でこの賞を授与することを光栄に思います。いかに探検とテクノロジーが連携して創意工夫と進歩を生み出すかという真のデモンストレーションと言えることであり、お二人を称えることは間違いなく最善の選択でした。」と述べた。

なお、3月に開催された Oceanology International 国際会議・展示会 (ロンドン) で、「Into the abyss: exploring the deepest realms of the world's oceans」と題して Vescovo、Walsh、Lahey の三氏によるパネル討論も行われた。

ちなみに、同賞の最初の受賞者は、2020年の受賞者で、MacArthur Fellow、海洋研究者、生物発光の女性研究者である Edie Widder 博士であるが、同氏は受賞時に次のように語っていた。「Don Walsh 氏は、マリー・キューリー、ジャック・クストーそして私の母に加えて、私にとつ



Oceanology International で、「Into the abyss」という興味深いタイトルでパネルディスカッションを行った Vescovo、Walsh、Lahey の三氏

てもう一人のスーパーヒーローです。その名誉あるお名前を冠した意義ある賞を受賞したことは大変なことです。」

### [参照]

- [https://www.mtsociety.org/index.php?option=com\\_dailyplanetblog&view=entry&year=2021&month=10&day=04&id=149:mts-and-sut-announce-winners-of-the-2021-captain-don-walsh-award-for-ocean-exploration](https://www.mtsociety.org/index.php?option=com_dailyplanetblog&view=entry&year=2021&month=10&day=04&id=149:mts-and-sut-announce-winners-of-the-2021-captain-don-walsh-award-for-ocean-exploration)
- <https://sut.org/captain-don-walsh-award-for-ocean-exploration/>
- [https://www.mtsociety.org/index.php?option=com\\_events&task=icalrepeat.detail&evid=55&Itemid=182&year=2022&month=03&day=15&title=oceanology-international-&uid=f63e323b04d626c0ae8607ecbcc5f705](https://www.mtsociety.org/index.php?option=com_events&task=icalrepeat.detail&evid=55&Itemid=182&year=2022&month=03&day=15&title=oceanology-international-&uid=f63e323b04d626c0ae8607ecbcc5f705)

## — What's NEW? —② OCEANS2022 Hampton Roads ハイブリッド開催決定

昨年の OCEANS2021 サンディエゴ・ポルト国際会議での経験を活かし、OCEANS2022 ハンプトンローズでは、対面とバーチャルを可能な限り融合し、さらに強力なグローバルイベントとすべく準備をすすめています。

対面またはバーチャルを問わず、すべての参加者の利便を考慮して、米国東部時間帯の標準的



な OCEANS スケジュール中に、プレナリー、ワークショップなどを開催する予定です。開催日は2022年10月17~21日、開催場所は Virginia Beach Convention Center、アブストラクトメ切は5月16日です。国際会議情報のウェブサイト参照ください。

## 国際会議情報

- AUVSI Xponential  
April 25-28, Orland, FL, USA  
<https://www.xponential.org/xponential2022/public/Enter.aspx>
- 10th Annual Deep Sea Mining Summit 2022  
April 26-27, London, UK  
<https://www.deepsea-mining-summit.com/index>
- OTC 2022  
May 2-5, Houston, Texas, USA  
<https://2022.otcnet.org/>
- OCEAN FRONTIER 2022  
May 16-19, Halifax, Canada  
<https://oceanfrontierinstitute.com/>
- WODCON2022 (World Dredging Congress)  
May 16 - 20, Copenhagen, Denmark,  
<https://wodcon2022.org/>
- SUBMARINE NETWORKS EMEA  
May 17-18, London, UK  
<https://www.terrapinn.com/conference/submarine-networks-world-europe/>
- OMAE ; 41st International Conference on Ocean, Offshore & Arctic Engineering,  
Conference: June 5-10 / Exhibition: June 6 -9,  
Hamburg, Germany  
<https://event.asme.org/OMAE>
- UDT (Underwater Defence technology)  
June 7-9, Rotterdam, Netherland,  
<https://www.udt-global.com/>
- SEANERGY2022  
June 5-17, Lehavre-Normandy, France,  
<https://www.seanergy-forum.com/en/seanergyforum>
- UN Ocean Conference  
June 27-July 1, Lisbon, Portugal  
<https://www.un.org/en/conferences/ocean2022>
- US Offshore Wind 2022  
July 18-19, Boston, USA,  
<https://reutersevents.com/events/offshore-wind/>
- UMC2022 (Underwater Minerals Conference)  
October 2-7, St. Petersburg, Florida, USA  
<https://www.underwaterminerals.org/>
- OCEANS 2022 Hampton Roads  
October 17-21, Virginia, USA  
<https://hamptonroads22.oceansconference.org/>
- Offshore WINDPOWER 2022  
October 18 -19, Providence, RI, USA  
<https://cleanpower.org/events/offshore-windpower-2022/>

## 編集メモ

MTS 日本支部役員および執行委員の人事として、昨年10月、金子博文執行委員(前防衛装備庁艦艇装備研究所長)が MTS 日本支部役員(トレジャラー担当)に就任、また、今年度をもって、富山真一執行委員(海上保安庁)が退任することになった。

金子氏には前職における広いネットワークから他団体にさきがけ岩国海洋環境実験評価サテライトの施設見学を企画いただいた。このように、大学・研究機関のみならず、防衛分野等にも太いつながり持っているところが MTS の特徴であり、今後の MTS 日本支部企画のイベントにますますご期待いただきたいと思う。

富山氏には2015年の MTS 日本支部新体制始動より執行委員として貴重なご意見をいただいていたが、特に、昨年に実施したホームページリニューアル、サーバー移行においては、すべての作業をおひとりで担い、立派なマニュアルまで作成していただき、さらには IT 音痴で理解の遅い我々へ辛抱強く最後まで丁寧に指導していただいた。富山氏の多大なるご功労に心よりお礼申し上げたい。

さて、まだまだこの先のコロナ状況が読めない段階ではあるが、できれば、Virginia Beach の open air を肺いっぱい吸いたいものである。そして、何よりもみなさんと元気な姿でお会いできることを楽しみにしています！！

MTS では、アメリカにおける海洋科学技術、政策、産業に関する最新情報や研究助成、学生奨学金などの情報を提供しており、国際的なネットワーク形成に非常に有用で、特典として OCEANS 国際会議の参加登録料も会員価格になります。是非、入会をお願いいたします。

MTS 日本支部 e-mail	<a href="mailto:office@mtsociety-jp.org">office@mtsociety-jp.org</a>
MTS 日本支部 website	<a href="https://www.mtsociety-jp.org/">https://www.mtsociety-jp.org/</a>
MTS 本部 website	<a href="https://www.mtsociety.org/home.aspx">https://www.mtsociety.org/home.aspx</a>
MTS 会員登録関係	<a href="https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx">https://www.mtsociety.org/membership/new/add.aspx</a>